昭和24年12月7日運輸省特別扱承認第1号　昭和34年8月16日（日曜日）（日刊）

いばらき
発行所
茨城新聞社
水戸市南町四一七番地
電話（水戸）代 3121～4
© 茨城新聞社 1959

コンテナーは必要なし

原発一本松副社長ら語る

炉の安全性には自信

耐震性 関東大震災の三倍

原子力発電会社の一本松副社長、福田常務、吉岡技術部長の三人は十五日午後五時から水戸市三笠荘で記者会見を行い、同社が英国から導入しようとしているコールダーホール改良型発電炉（電気出力十五万九千キロワット）の諸問題についてつぎのように語ったがその中で①コンテナー（防護壁）の取付けは必要がない②GECとの正式契約はおそくも九月下旬までには結びたい③関東大震災の三倍も強い地震が起っても炉の安全性には絶対自信がある④燃料費が安くなっており、安全審査委員会の中間報告の線にそって設備関係の設計変更をやれば金はかかるが、それによって燃料費が五、六パーセント軽減されるので発電コストは当初の計算通りKWH当り四円九十八銭は確保される、ことを明らかにした。コンテナーの問題は去月三十一日の原子力委員会主催の公聴会でも過半数の公述人がその必要性を述べ、発電会社の態度が注目されていたがこの日の記者会見で取付けの必要がないとの公式発表を行った点がとくに注目されている。

一、GECとの契約時期は安全審査委員会の結論が出た後になるができれば九月いっぱいくらいには正式契約を結びたい。安全審査委の結論が遅くなるようなら便法として結論が出る前に一応契約を済ませ許可が下り次第着工することも考えている。しかしいつまでに契約しなければならないという制度はないのだからもし安全審査委員会で安全上の問題が最終的に決まらない場合は契約をそれまで延ばさねばならないだろう。

二、コンテナーを取付けることはいまのところ考えていない。コンテナーを取付けるとなると建設費がかさむばかりでなく、どの程度の事故が起きるかという技術的な面での基準とも関係してくるし、現在の設計では関東大震災の三倍程度の震度に耐えられることになっているので原電としては全然必要がない。

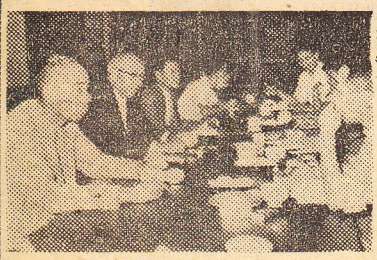
このため炉心につながっているガスダクトなどの一次系統を補強したので構造上これ以上の防護対策は不必要である。

三、事故を起した場合の処置としては新らたに緊急停止装置と緊急冷却装置を取付けることになっており、とくに緊急停止装置は原電が発案したボロン・スチールのリングを落して炉を停止するようにしており、この装置が稼動すればたとえ地震によってガスタンクが破損したり炉心部がゆらぐ場合でも完全に炉が停ることになるもので一般に被害を与えるような事故は未然に防げる自信をもっている。

四、原子炉安全委員会の中間報告に基いて炉の設計を一部変更したため若干金がかさむがこの変更によって逆に燃料費が五、六パーセント（約十ないし二億円）節約できる

五、放射能問題についてはこの炉は水冷却と違って水と燃料体との反応によって、その結果できる放射能が出るわけではなく、考えられる事故としては燃料棒の破損によってそこからよう（沃）素131が出ることが予想される。その濃度は最大値で二百五十キュリー程度（英国のウインズケールの事故の場合は二万五千キュリー）だから住民の避難などは必要がなく、ほとんど一般への被害はないと思われる。

六、事故時の補償は約六十億円の原子力災害保険によって十分な補償ができると考えている。その基準などは目下検討ないし電力としては補償しない事故は起らない



写真は記者会見の（左から）原子力発電会社福田常務、一本松副社長、吉岡技術部長。

キハク醤油
最上を誇る

鉾田中PTA役員選任

鹿島郡鉾田町中学校PTAではこのほど総会を開き決算予算、役員改選の結果次の通り決定した。◇会長塩谷彦衛氏◇副会長鹿島松氏羽生まさ子氏。

31/2 回覧
6 8 7 6 5 3 4 5
にキ
算通り一KWH
番 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
の